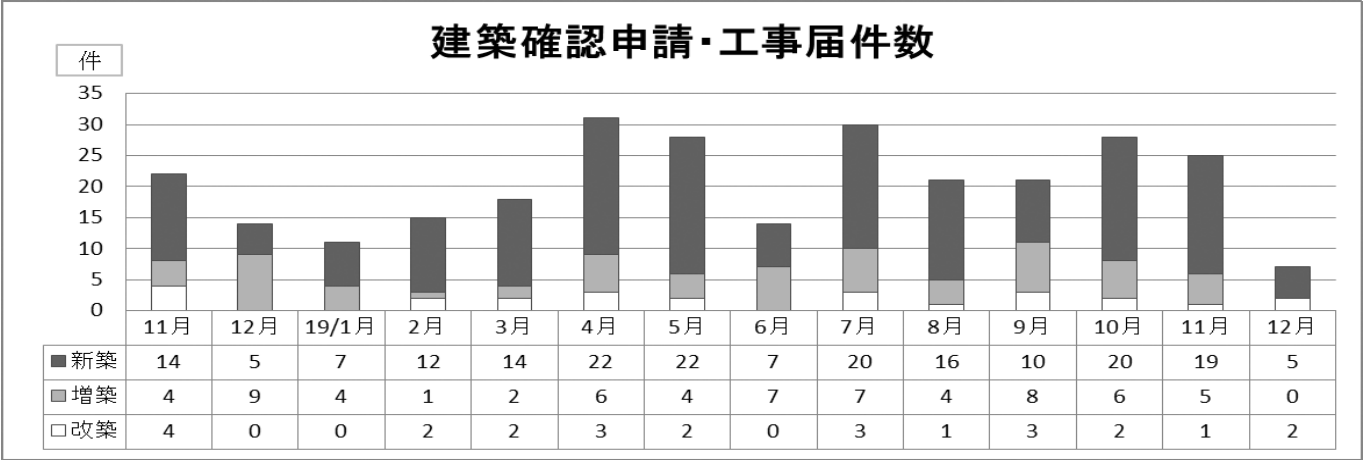
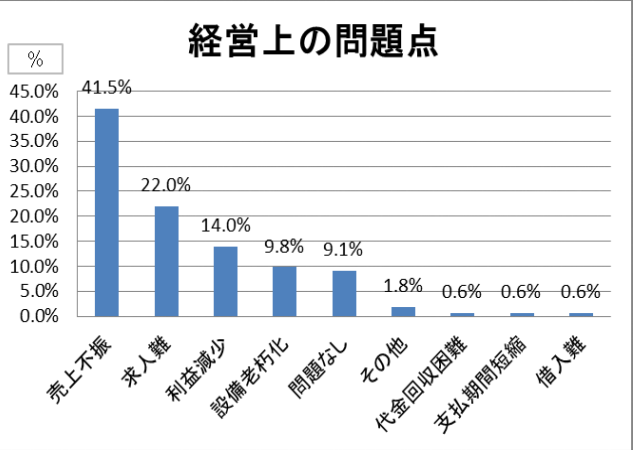
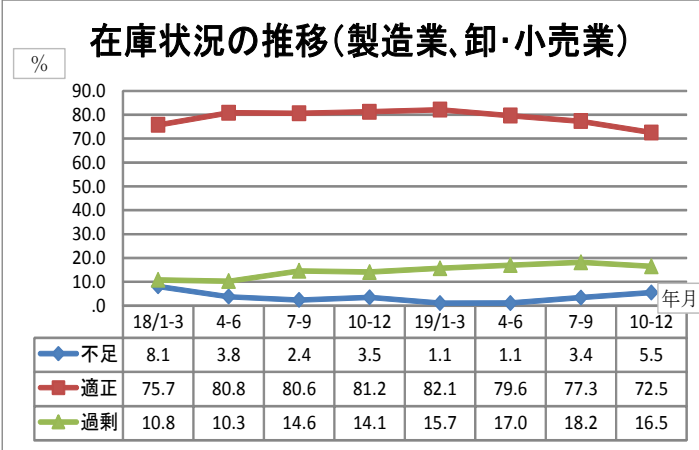
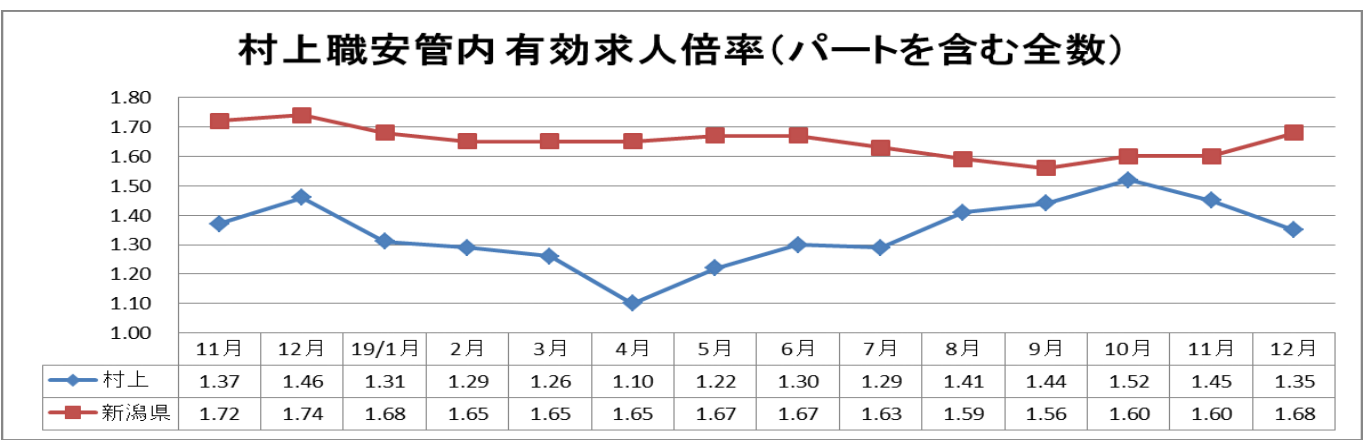


村上市 景況調査報告

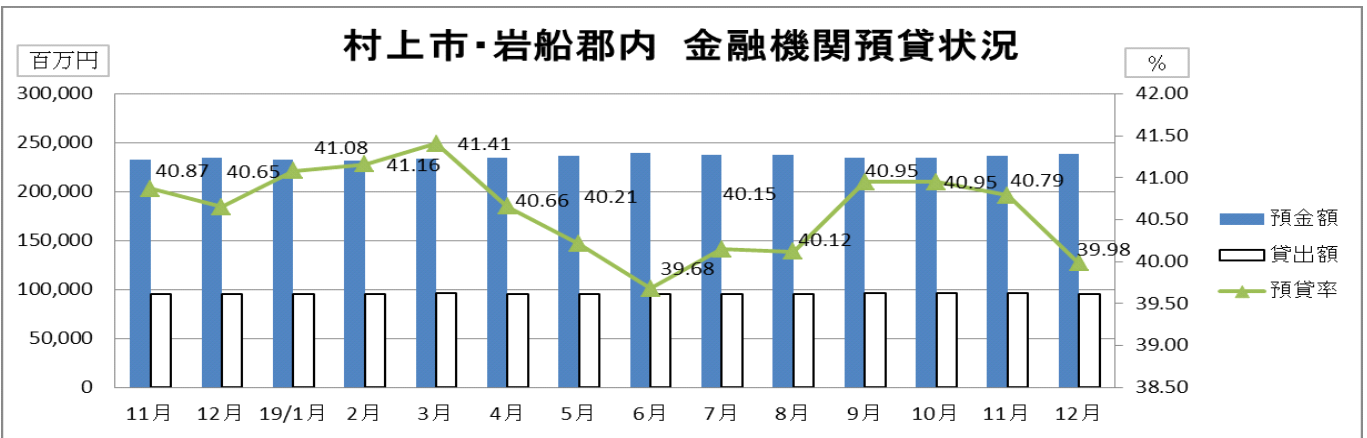
＜令和元年10～12月期の実績と令和2年1～3月期の見通し＞
『秋の需要伸長が増税影響を吸収するも、先行きは依然慎重』



※本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります



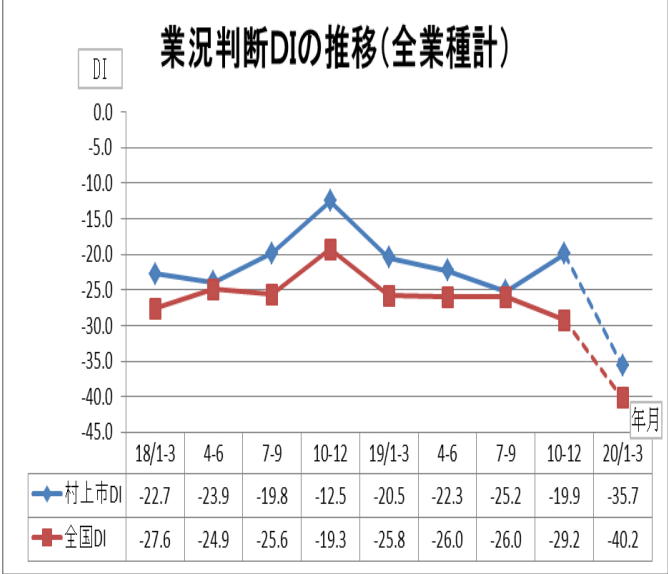
※上記有効求人倍率は、季節調整値再計算により改訂した数値を記載しています。



調査時期	2019年12月中旬～2020年1月上旬
調査対象	村上市内事業所200社 有効回答数：170社(回収率85.0%) [業種] 卸売・小売業62社、建設業41社、製造業30社、飲食・宿泊業21社、サービス業46社 [地区] 村上地区104社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区19社、山北地区23社
実施機関	村上市地域経済振興課 村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会
分析機関	村上商工会議所
参考資料	全国中小企業動向調査(小企業編)結果/日本政策金融公庫 (全国DI) <2019.10～12実績、2020.1～3見通し>

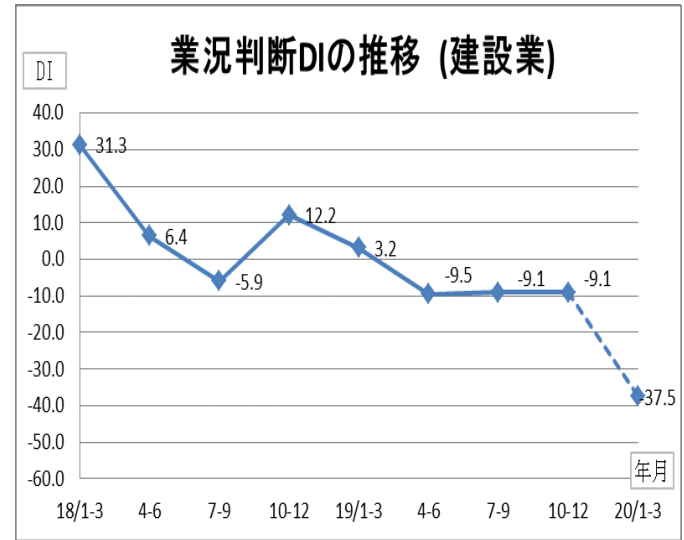
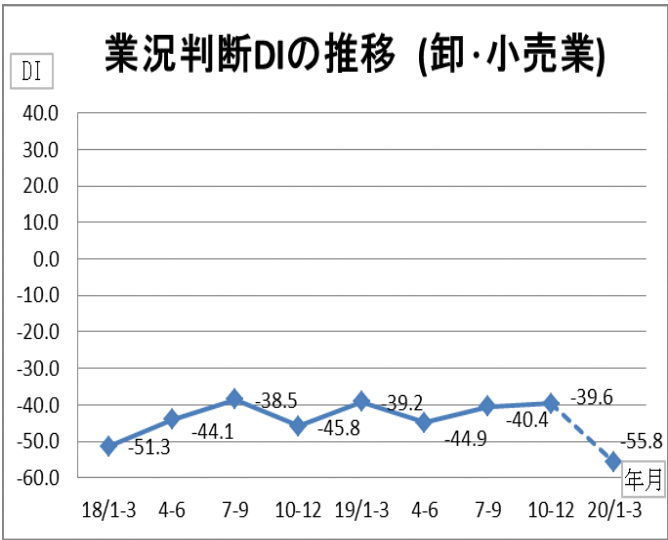
DI値(景況判断指数)=[増加・好転などの回答割合]-[減少・悪化などの回答割合]
 (※売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味着)

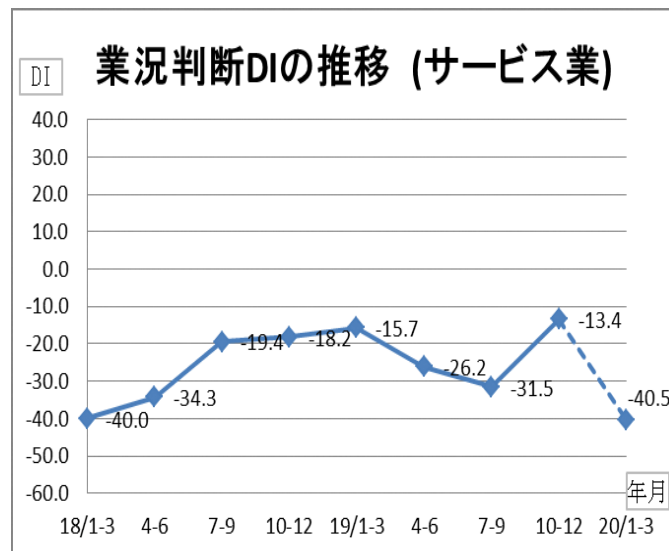
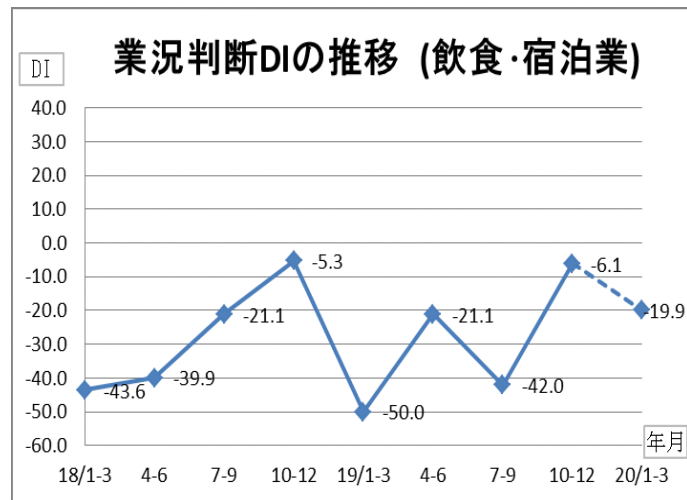
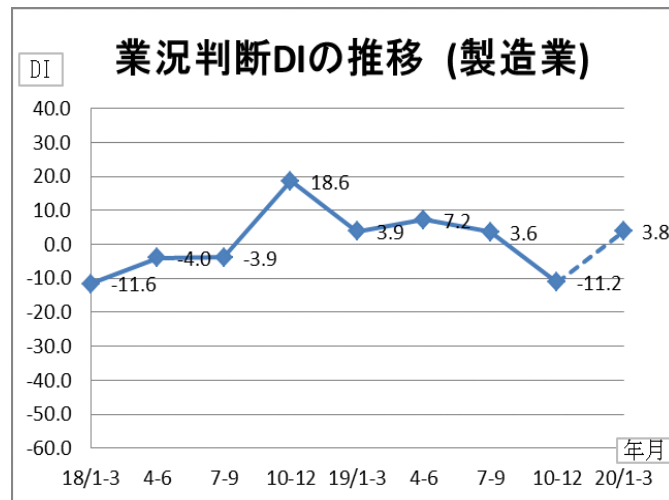
■村上市の業況



今期(19/10～12月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(19/7～9月期)と比べ、5.3%上昇し、▲19.9となった。上昇は4期振り、前期における今期予測より3.9%上回ったが、前年同期比では7.4%下回った。消費税率の引上げの影響の声も聞かれるものの、製造業を除く全業種でDIが上昇または横這いとなったため、全体的にDIが上昇する結果となった。

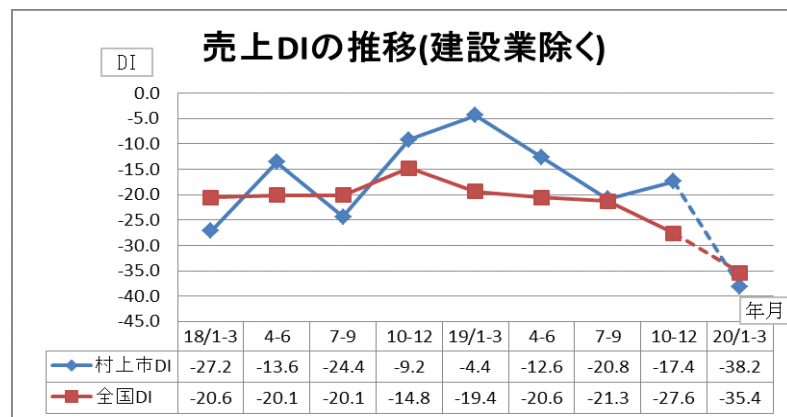
来期(20/1～3月期)については、15.8%の低下で▲35.7となる見通しで、製造業を除く全業種で悪化が見込まれている。消費税率引上げによる節約志向の強まりや今冬の少雪による影響、人手不足による受注機会の損失・人件費の増加、原材料費の上昇など不透明感が増す中、業況感には慎重な姿勢が続く。新型コロナウイルス肺炎にも注意が必要。





今期の業種別業況判断DIは前期比で、卸・小売業が、消費税率の引上げによる消費減退と攻めの経営による域外需要の取り込み等が相殺され横這い。建設業も一般受注の減少と国土強靱化に係る受注増が相殺されるなどして横這い。製造業は受注減少等で14.8%減少。飲食・宿泊業は宿泊が良好に推移しDCや復興補助券等の効果も相まって35.9%、サービス業も受注や福祉施設の利用者の増加等で18.1%、それぞれ増加した。

来期は、製造業以外の業種で悪化する見通し。寄せられたコメントに①少雪で売上(車両修理)が減少(卸・小売業)、②除雪作業がなく収入減(建設業)、③4月販売に向け新製品の製造開始(製造業)、④消費税増税の影響で買い控え(飲食・宿泊業)、⑤人員不足で仕事が間に合っていない(サービス業)等があった。

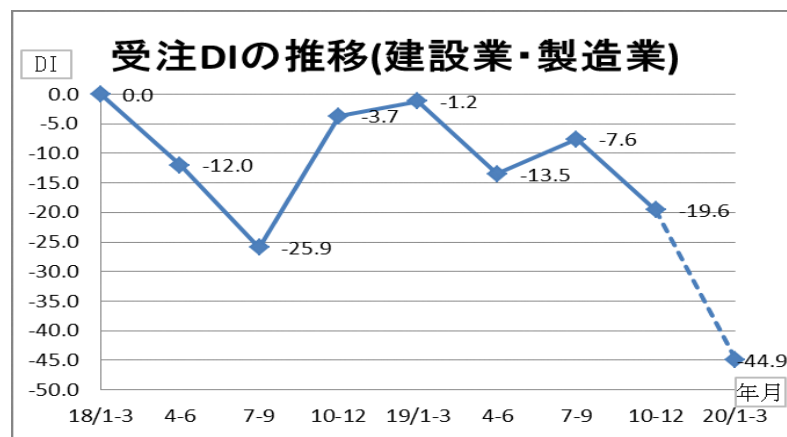


今期の売上DI(建設業除く)は、前期に比べ3.4%上昇し、▲17.4となった。上昇は3期振り、前期における今期予測よりも4.4%上回ったが、前年同期比では8.2%下回った。

全国DIは、前期に比べ6.3%低下し▲27.6となった。

来期については、20.8%低下し▲38.2となる見通し。

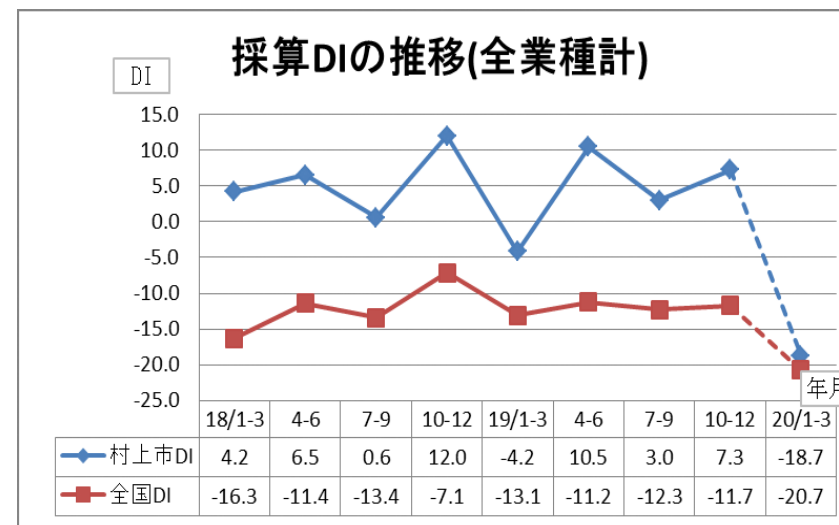
全国DIも、更に7.8%低下し、▲35.4となる模様。



今期の受注DI(建設・製造業)は、前期比で12.0%低下し▲19.6となった。前期における今期予測とほぼ同水準(▲20.2)であるが前年同期比では15.9%下回った。

来期については、更に25.3%低下し▲44.9となり、過去10年間で最低水準になる模様。

受注DI内訳	前期	今期	来期
・建設業	▲12.2	▲8.9	▲45.4
・製造業	14.3	▲26.9	▲38.5

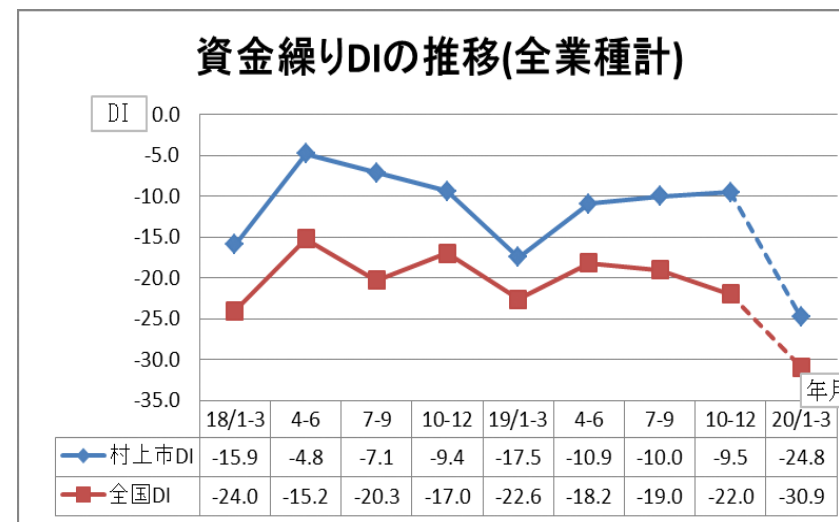


今期の採算DI(全業種計)は前期比4.3%の上昇で7.3となった。前期における今期予測より1.8%上回ったが、前年同期比では4.7%下回った。ここ16期一進一退が続いている。

全国DIはほぼ横這いとなり、▲11.7となった。

来期については、26.0%低下し▲18.7となる見通し。

全国DIも9.0%低下し、▲20.7となる見通しである。

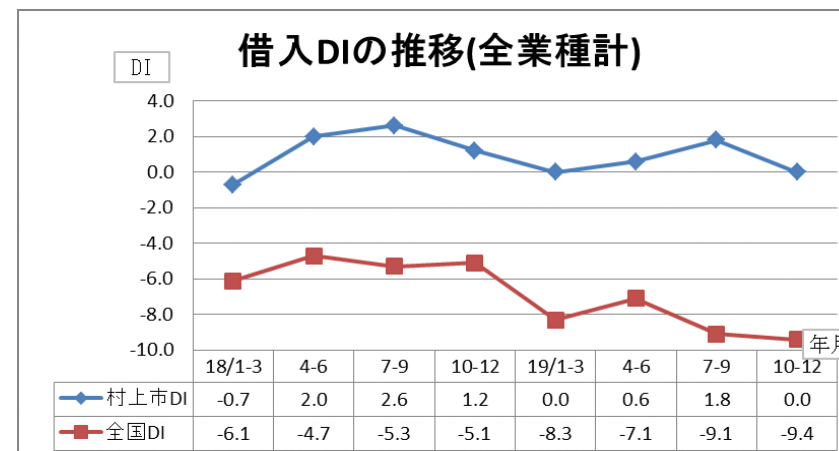


今期の資金繰りDI(全業種計)は前期比でほぼ横這いとなり▲9.5となった。前期における今期予測より6.7%上回ったが、前年同期比では、ほぼ横這いとなった。

全国DIは3.0%低下し、▲22.0となった。

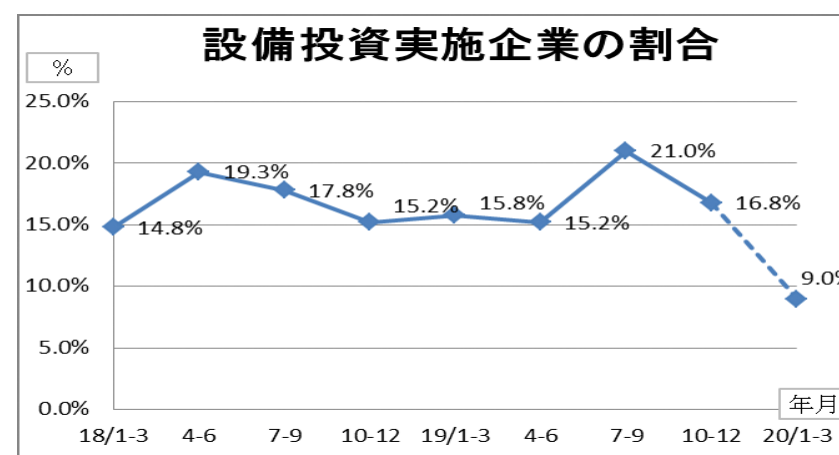
来期については、15.3%低下し、▲24.8となる見通し。

全国DIも更に8.9%低下し、▲30.9となる見通しである。



今期の借入DI(全業種計)は、前期と比べ、1.8%低下し、0.0となった。低下は3期振り。

借入DI内訳	前期	今期
・容易になった	3.0% → 3.0%	
・変わらない	38.7% → 39.1%	
・難しくなった	1.2% → 3.0%	



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期と比べ、4.2%低下し、16.8%となった。しかし前年同期比では1.6%上回った。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、7.8%低下し9.0%となる見通しである。